

種池山荘～針ノ木岳～黒部湖

2018年7月24～26日

秋葉信夫

未踏であった「針ノ木岳から種池山荘」を歩き、北アルプスの玄関口上高地から日本海までを踏破できたこと。廃道同然だった登山道を歩くことができ、整備された船窪小屋の松澤氏に感謝します。私にとって、長年温めていた2つのことを実現でき満足度の山行でした。

7月24日 種池山荘へ



午前0時に自宅を出発、佐久平パーキングで3:00から1時間仮眠。扇沢を出発し、柏原林道を登る。人気のコースだけに多くの登山者でにぎわっている。早くに種池山荘に着いてしまったが、これ以上進むとテント場がないのでここで宿泊することにする。。ここは

北アルプスの展望台鹿島槍、劔岳、テント設営をし、針ノ木岳等の名だたる山が望める。時間があるのでスケッチをして過ごす。

いわき湯本 IC 0:00⇒扇沢 6:00 扇沢 6:30→種池山荘 10:30

7月25日 針ノ木だけを経て、針ノ木沢出合へ

種池山荘から針ノ木岳に至る稜線は 2,400m～2,800m 台の間の岩尾根やガレ場を何度も登り下りをし、滑りやすいところもあり結構緊張を強いられる所だ。しかし、足下に黒部湖を眺め、北アルプスの峰々を広く望みながら歩くのは何よりも替えがたい。



連日続く暑さに喘ぎあえぎ登るが、咲き乱れる高山植物と時折吹き上げて来る雪渓からの涼風が慰めてくれる。

あまりの暑さに食欲もない。針ノ木山荘にて缶ビールで喉を潤しやっと一息ついた。

まだ時間も早いので明日の行動を考えて針ノ木沢出合まで下りることにする。藪がかった登山道の目印を見失わないように注意しながら進む。

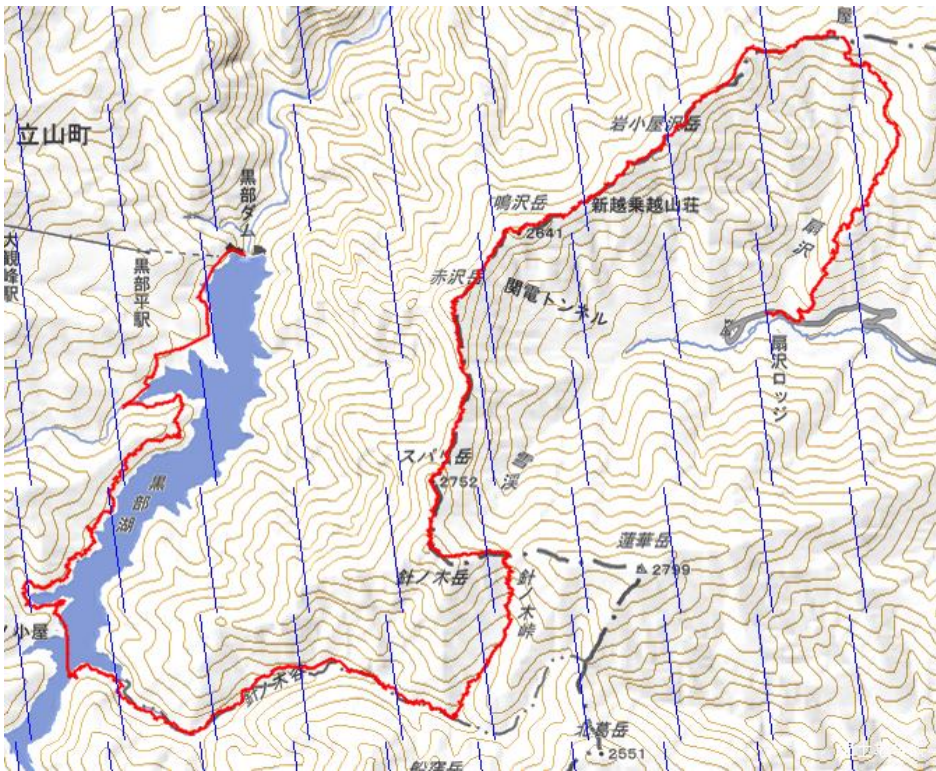
やがて沢の中を歩くようになり、滑りやすい石で何度も足が水中に入り靴の中は水浸しになった。出合には高台に幕営適地があり、一人寂しくコップを傾ける。



種池山荘 4:40→岩小屋沢岳 5:55
→新越山荘 6:40→鳴沢岳 7:40→赤
沢岳 8:25→スバリ岳 10:35→針ノ
木岳 11:45～12:00→針ノ木峠
12:30～13:00→針ノ木谷 出合
15:15

7月26日 平ノ渡しから黒部ダムへ

廃道になっていた道が整備されて、一度は歩いてみたいと思っていたところだ。出合から下ると船窪分岐、ここからは目印が多くなって安心する。急坂を高巻いたり、何度も途渉があり気が抜けない。本日も靴は水びたし。南沢で出合からは登山道も良くなり一安心。



平の渡しには予定より2時間も早く着いたのでスケッチをして過ごす。やがて船が迎えに来て客は私だけ、湖上からの眺めを独り占めだ。

黒四ダムまでは地図では平坦に見えるが、実際は2,400m～2,500m台を何度も登り下りする。うんざりする道だが3:35のトロリーバスに乗り、岐路につく。

出合 4:50→船窪分岐
5:15→南沢分岐 7:20→
平ノ渡し 8:35～10:25
→中ノ谷 11:00→御山谷

13:30→ロッジくろよん 14:10→黒四ダム→トロリーバス乗り場 14:55 扇沢 16:15⇒薬師の湯
16:30～17:00⇒自宅 24:00 (文責・秋葉)

2018年 7月山行 大朝日岳

(2泊3日 一日目：朝日鉱泉～鳥原小屋 (1430m))

2018年7月20～23日

参加者 6名

(秋葉・渡辺・菅野・志尾崎・菊池・山縣)

タイム：水石トンネル6時出発(渡辺号)米沢経由朝日鉱泉9時30分着

10時40分出発 鳥原小屋15時30分着(ほぼ予定通りの行程)

快晴。暑い一日。朝日鉱泉登山口を出発してすぐに吊り橋を渡る。体が慣れていない分、少々緊張。沢を見ながらブナの森を進む。木陰ありがたい。水が豊富な山と聞いていたが、確かにしっとりとした土の感触。登山道に時折カエルを発見。水場が豊かな分、カエルも元気。途中、金山沢で冷たい沢水で火照った体を冷やす。

アオノツガザクラ、クルマユリ、ミヤマゼンゴ、タテヤマリンドウなどを眺めながら目的地を目指す。標高1300mを超えたあたりで木々は低くなり湿原が広がる。間もなくほぼ予定通りの行程で鳥原小屋到着。まずは、菅野さんからの差し入れの冷たいビールで乾杯。本日の宿泊は、無人小屋ながら水洗トイレ付。一泊1500円。ほかの宿泊者はおらず、貸し切り状態。登山の疲れもなく、皆で夕食の準備。メニューは菊池プロデュースの豪華版。シンギスカン、塩タン、ラーメン等。材料の肉、キャベツ1玉、玉ねぎ6個その他重い荷物を担ぎあげてくれた男性陣に感謝しながら楽しい時間を過ごす。無事に楽しい時間を過ごせたことに感謝しながら19時就寝。

(文責：山縣紀子)



大朝日岳 2日目 7/21(土)

秋葉・渡辺・菅野・山縣・菊池・志尾崎

4時半起床 5時半鳥原小屋1320m出発。カラマツソウが水場に咲いている。湿原を行くと登山道に沿って白いシャクナゲが続く。1423mの鳥原山山頂を過ぎると、これから行く登山道が小朝日岳からずっと大朝日岳のほうまで延びているのがきれいに見えた。

小朝日岳付近にはイチゴが群生しておりその甘さに舌鼓を打った。小朝日岳の急な下り坂を降りると、そこから大朝日岳山頂までは一面の花畑が登山道沿いに続いていた。

モミジカラマツソウ、ミヤマカラマツ、ハクサンフウロ、マツムシソウ、ハクサンチドリ、ヨツバシオガマ、ミヤマリンドウ、ア리카キドオシ、シシウド、ミヤマゼンゴ、ニッコウキスゲ、コキンレイカ、アキノキリンソウ、オトギリソウ、チングルマなど、春と夏と秋がいつぺんに来たように花々が続き、心躍らせながら、登った。1700m銀玉水にて給水。ガスが出て強風にあおられながら、1780m大朝日小屋へ11時到着。

強風の中みんなに見守られながら山縣さんが単独大朝日岳登頂、山頂から手を振る。菅野さんと菊地さんは西朝日岳へのオプション、金玉水を汲んできた。

焼きそばとベーコンスープの夕食。小屋が混んできたので、6時には就寝。

大朝日岳 3日目 7/22(日)

4時起床。5時出発。雨は降っていないが強風に吹き飛ばされそうになりながら、1814m大朝日岳頂上を踏む。中ツル尾根に下ると風は少し穏やかで、そのまま一拳に尾根を下る。

沢沿いを進みつり橋をいくつか渡り、朝日鉱泉560mまで下った。12時着。長い道のりだった。

田代山・帝釈山

晴天にも恵まれて逆に暑さが心配される中、猿倉登山口に到着。多くの登山客が訪れて駐車場も車がいっぱい。登山口には、トイレも整備されているので安心。

暑さや虫よけ対策を行い、準備を整えて予定よりも少し遅れて9時20分に猿倉登山口をスタート。始めは順調な登り出してくださるの草花が出迎えてくれた。



小田代から田代山湿原に入ると、どこまでも広がる青空の下、きれいな草花を写真に収めながら木道を進む。その素敵な風景が疲れた気持ちを一気に吹き飛ばしてくれました。

11時35分、田代山山頂に到着。広々とした場所すぎて、山頂という感じがあまりしない…。さらに登山客とすれ違いながら木道を進み、12時少し前に弘法大師堂へ到着。

木陰の涼しいところで昼食タイム。冷やし中華や色とりどりのフルーツ、凍らせたゼリーなど美味しそうなものばかり！！幸せなひと時を楽しみました。しっかりと栄養のある食事で午後に備えます。弘法大師堂にもトイレが整備されており、大変きれいでした。(ただし、多くの登山客がいると込み合いますので注意！)

お腹もいっぱいになったところで、12時45分に弘法大師堂を出発。午後も順調に進み、14時に帝釈山山頂に到着。拍手とともに万歳三唱！で喜び合いました。記念撮影もそこそこに帝釈山を下山。





14時50分、馬坂登山口に到着。教室生徒全員が無事に山行を終えることができました。その後、燧の湯で入浴して汗を流し、いわきへ戻ってきました。お疲れさまでした。ありがとうございました。

(文責：齋藤正博)

「立山三山・剣岳・大日三山と白馬三山」

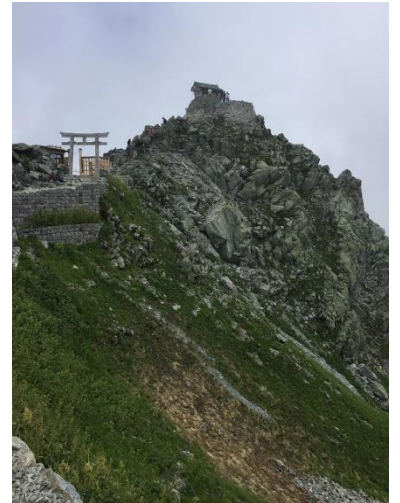
2018年7月31日(火)～8月6日(月)

参加者 栗崎透、栗崎容子 計2名

前日に立山まで入り、7/31に室堂から歩き始める。



まずは立山三山の浄土山を目指す。初めは観光客も散策できるような石畳の緩やかな道だったが、やがて岩屑の急登になる。テ泊装備の重ザックには堪える。浄土山を越えて、一の越からの雄山への登りもかなりの急登だ。雄山では、これからの山行の無事を祈願して御祓いを受け、最高峰の大汝山に向かう。



富士の折立、真砂岳をへて、三山の最後、別山に着いた時にはもうへ口へ口。

真下に今日のテン場が見えるが、遥かな谷底に落ちていくようだ。

18:00 劔沢野営場に到着。

8/1 サブザックで劔岳ピストン。

ハーネスを着けセルフビレーを取りながら鎖場に行く。

懸念していた登山道の渋滞もなく、なんとなく、登頂。



テン場に戻りビールで乾杯！

8/2 今日は大日三山をつなぐ。

最高の天気にも恵まれ、去年、一昨年と登った山がずらりと見える。

薬師、黒部五郎、笠、水晶、鷲羽、槍。

振り返ると昨日の劔岳がデカイ！

こじんまりとした、素敵な大日小屋に宿泊。

8/3 称名滝を下る。

ただただ下る。途中、称名谷を挟んだ弥陀ヶ原がすごい存在感。

あちらも、歩いてみたい。

四日間の汗を流し、糸魚川で新鮮な回る寿司を食べ、道の駅、白馬にて車中泊。

8/4 猿倉から白馬岳をめざす。



大雪渓を 6 本爪アイゼンを利用
させ登る。

雪渓よりも、その後の岩層の急
登がきつい。

避難小屋の前の岩の道で、私の
目の前から、大岩がラク！

加速して転がり、下にいた登山
者に衝突。

幸い軽傷ですんだらしいが、こ
の先も慎重に登る。

満杯のテン場になんとかテン

トを張り、白馬岳をピストン。

山頂から見える尾根、その先に続く山々の景色が素晴らしい。

8/5 杓子、鑓を経て白馬鑓温泉へ向かう日。

夜中から暴風。テントを撤収するのも大変な風が朝まで続く。

風の中、稜線を行くうちに青空が支配してくる。こちらからも、劔岳、立山が見える。

歩く先には、唐松岳、五竜、鹿島槍が重なりながらも存在感を示す。

あちらにも行かなくては。稜線を離れて、鑓温泉に降りる。最高の温泉とビールで乾杯！

8/6 猿倉まで降りる。

4 時間ほどのくだりで、猿倉へ到着。

合計で 7 日間の山旅を終える。一度も雨に降られず、青空に恵まれたことに感謝！

ただ、北アルプス是一直も人が多いが、今回の白馬三山は曜日巡りも悪かったが、辟易するほどだった。

山に罪はないが・・・

静かな時期に再訪したい。

(文責 栗崎 透)



北横岳（2480m）

平成 30 年 8 月 18 日（土）快晴

菊地、秋葉、下山田、馬場、渡辺(敏)、大和田、甲高、志尾崎、西、太、山縣、松本、伊藤
渋谷、二瓶、吉田、石城登山教室生徒 5 名

1 日目 8/18（土）



石城登山教室の 8 月実技山行は、ハヶ岳の北端に位置する北横岳のため、早朝、午前 5 時過ぎにいわき合同庁舎駐車場を出発。北ハヶ岳ロープウェイに乗り 2237m の山頂駅へ。坪庭を抜け北横岳を目指す。山頂は快晴で素晴らしい展望に皆、感激でした。三ヶ岳Ⅲ峰⇒Ⅰ峰とハードな岩場で途中鎖場もありました。大きな岩が重なり合い深い穴もあり気が抜けませんでした。雨池山を経てやっと縞枯山荘へ。美味しい夕食と皆さんとの楽しい時間を過ごし翌日の早朝出発に備え早めに床に就きました。

コースタイム 8 月 18 日（土）いわき合同庁舎 5：18⇒ロープウェイ山魔駅 10：40⇒坪庭⇒北横岳ヒュッテ⇒北横岳 13：38⇒三ヶ岳⇒雨池山⇒雨池峠 16：45⇒縞枯山荘 16：53

（文責・赤塚）



いわきの気になる山（11） 高ボッチ（420m）

2018年1月30日 秋葉信夫、

田人には2つの「高ボッチ」がある。一つは先に紹介した旧田人カントリーの南の「高ボッチ（773m）」もう一つは今回の「高ボッチ（420m）」です。

田人町の紹介に、「黒田地区は御齊所山（400m）に続く峰々を北側に背負い、鮫川を挟み、遠野町大平と町境を接し、貝泊・戸草及び荷路夫地区との地区境となる西側には、大山（438m）・縦山（649m）・大曾根山（567m）・高ボッチ（447m）があり、出旅人との地区境をなす南側には愛宕山（367m）山塊が立ちほだかり、…」とあります。この高ボッチがどこか分からず役場に問い合わせても分からないとのこと。

前記の紹介にある付近の440mと450m等高線の間でピークを探すと、前回調べた三ヶ村ボッチの峰続きすぐ傍にそれらしきところが見つかった。地図にチェックを入れて調査に出かける。

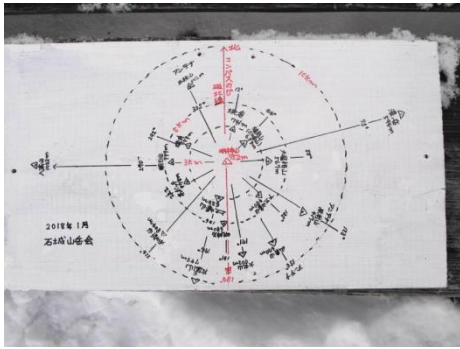
黒田地区からボッチ（出っ張り）が見えるはずだと、まず愛宕山に登って観察すると、あった！



間明沢に移動し、車道から作業道跡を登り稜線に出るとすぐに高ボッチに到着。周辺は伐採され展望が広がる。



案内板を付け、三ヶ村ボッチまで往復する。往復50分。



これで疑問だった田人の山がすべて解明され納得。単独では直ぐに終わってしまう山なので、他の山と組み合わせて登ると楽しめるでしょう。今回は明神山に展望板を置いてきました。田人の山は面白い！ 今度から「田人の山コンシェルジェ」と名乗ろうかな。



いわきの気になる山 (12)

一の森 (221.2m) いやの山 (330m)

2018年2月26日 秋葉信夫、

いわき市内郷高野 (旧高野村) 地区にある山です。暮しの伝承郷で「高野今・むかし」という本



をパラパラとめくったら、「高野を取り巻く山は、横綱は『湯ノ岳』と『三大明神』。大関は東に『一の森』、西に『いやの山』。吹上山は一の森といい、高野富士とも称する。」「昔はカヤ山が多く、頻繁に山火事が起こった。そのため山番が

配当され、三大明神付近で見張っていた。火災を発見するといやの山まで駆け下り、尾根の中程に設置された版木を激しく叩いて、地区民に知らせた。」とあった。

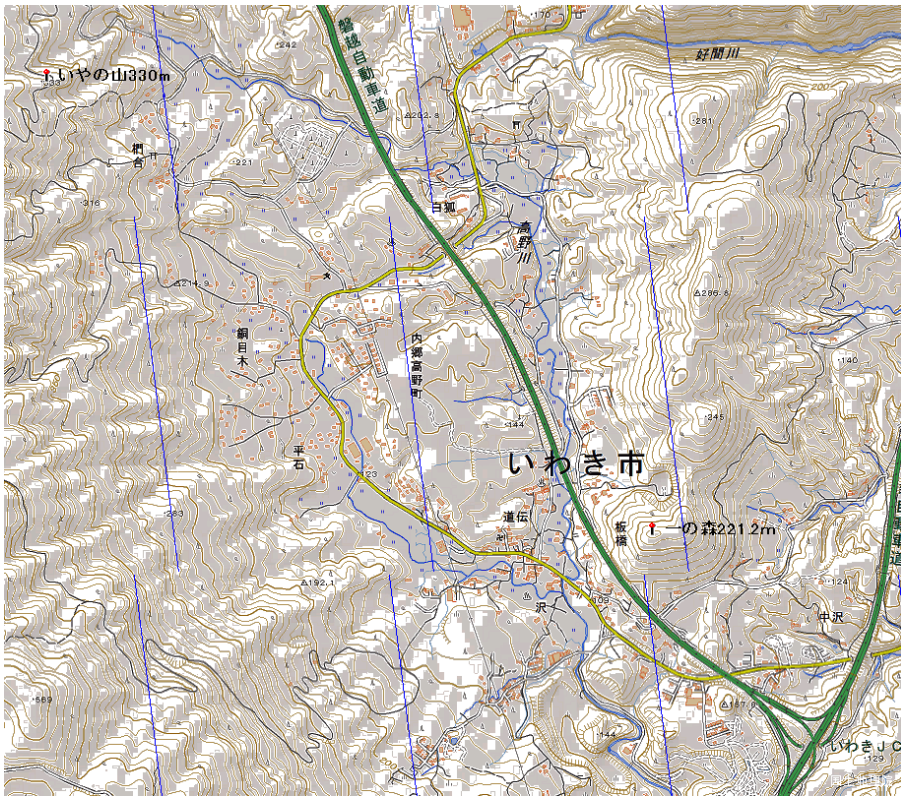
さてその山はどこにあるのだろうか？ しかし、位置が不明、地形図をみてそれらしいところを探したが分からない。ある日高野のバス停にあった地域の案内板を見ると両山が記載しており、やっと位置が判明した。

一の森はいわき JC の北西 1km にある山、早速行ってみる。登山道はないが標高差 80m 程度なので歩きやすいところを適当に登る。頂上には大山祇大神の石碑が立っていた。

以前に、「いわき市には三つの富士があるそうですが、絹谷富士、滝富士、あと一つは何処ですか？」と聞かれたが「分からない」と答えた。

それ以来もう一つの富士が気になったいたが、これでスッキリ。

いわき三富士とは、絹谷富士、滝富士、高野富士です。



いやの山は高野の内郷三中の所から「モトクロスしどき」方面に向かい、途中から三大明神林道に入る。330mのポイントは林の中の林道上で何の印もないので注意が必要である。そこをどこまでも行くと三大明神や二ツ石山への林道と合流する。